

## 事業名 岩手県道路情報提供サービス事業

「広大で、多くの峠部を抱え、積雪寒冷地である県土の道路交通の安全確保を図るため、峠部に路面監視カメラを設置するとともに、これらの映像情報等をインターネット上に「道路情報」として提供した事業

受賞機関 岩手県土木部道路維持課

事業実施期間 平成10年12月1日～平成12年3月31日

事業費 25百万円

### 技術等の特徴と評価

積雪寒冷地域である峠部道路の路面画像情報や気温情報をインターネットにより提供し、冬期における道路利用者の安全な走行の確保に貢献している。

利用者によるアクセス頻度、評価も高く、利用者の視点に立った道路情報の提供手法の一つとして、その有効性を確認した点が評価される。

### 事業の概要と効果

岩手県は一都三県（東京、埼玉、神奈川、千葉）に匹敵する広大な面積を有している。

旅客、貨物輸送における自動車分担率は95%以上を占め、道路交通の整備・確保は他県以上に重要な地位を占めている。

一方、自然条件としては、全域が寒冷地域、8割が積雪地域である上に、沿岸と内陸部には北上山地、隣県秋



田との間には奥羽山脈が縦走しているため、道路交通は、距離、峠、積雪という悪条件を克服することが大きな課題となっている。

このような課題に対処し安全な交通路を確保するため、最も注意を要する峠部55箇所には路面監視カメラの設置を進めてきた。

今回整備した「岩手県道路情報提供サービス」は、このカメラから得られる情報の利用を拡大し、路面画像情報等をインターネットを通して配信し、「いつでも」「何処からでも」「誰でも」情報入手を可能にしたものである。配信する情報は、道路利用者が最も必要とする「路面画像情報」と「気温情報」で、1時間毎に自動更新されるシステムである。

55箇所のカメラから時々刻々と送られてくる情報を整理しながら蓄積し、インターネット上に掲示するために、独自の新しいソフトを開発し対処している。その開発は、県の外郭機関である(財)岩手県土木技術振興協会と県内ベンチャー企業が担当、地域技術を活用していることも特徴である。

利用者の利便を図るため、インターネットアドレスは“douro.com”という単純で覚えやすいものとしている（雪が降れば <sup>douro</sup>道路 <sup>com</sup>どっと <sup>com</sup>混む）。

このサービスのアクセス数は、平成10年度は12月から3月までの冬期4ヵ月間に約5万件を記録するなど、利用者からも好評である。

